

## 「安倍支持」の空気

4日に参院選が始まったが、朝日新聞1日朝刊の2019参院選「安倍支持」の空気に注目した。

第2次安倍内閣の発足から6年半。さまざまな不祥事や問題発言を重ねながらも、支持率は一定の水準を保ち続ける。なぜか。ゆるやかに漂う「安倍支持」の空気を追った。

写真のように、安倍内閣の支持率は、18～39歳の男性で際だって高いのが特徴だ。朝日新聞の世論調査で過去3年の平均をみると、18～29歳の男性は57.5%。30代男性は52.8%。男女の全体は42.5%だった。さらに、閣僚らの不祥事が起きて、この世代の支持率は一時下がってすぐに回復する。社会保障などで将来に回されたツケを負担する若い人々が、いまの政治を支持する理由を知りたい。

私も知りたいところだ。5年前まで大学で教えてきた学生たちの年代である。その時から薄々と感じてはいたが、こんな酷い政治、とりわけ安倍政権をなぜ支持するのかを知りたいと考えてきた。

記事には「変化望まない 頼みは自分」「若者ら政治に冷ややかな目」という大きな見出しが並ぶ。

「安倍支持の空気」について考えていたら、3日の朝刊に「若者ねらう 首相のSNS術」という記事が目にとまった。

リードから一安倍晋三首相が、芸能人とSNSでの「共演」を重ねている。自身のツイッターや首相官邸のインスタグラムに記念写真を積極的にアップ。「イメージ重視」の発信で、参院選の公示を4日に控えて若年層へのアプローチを意識しているのは明らかだ。こうした手法には批判の声も上がる。

官邸のSNS運営は、民間企業からの出向も含む内閣広報室の20代、30代の若手職員約10人らが担う。首相や官邸がSNSに力を入れるのは、支持層固めを意識するためだ。第2次安倍政権以降の内閣支持は、18～39歳の男性で際だって高い。アベノミクスの経済効果や雇用環境の好転といった政権の看板が響きやすい世代だ。さらに政府関係者は「首相は新聞を読まない層を重視している。SNSで自分でつかみ取った情報は『真実だ』と信じる傾向にある」と解説する。政策論争よりもイメージを重視した発信に、立憲民主党の蓮舫副代表は5月、「桜を見たり芸能人と会ったり。安倍首相にその時間があるんだったら、国会に来るべきだ」と予算委員会の開催に応じない自民党を批判した。

(2019年7月6日)

